

民会議主催の講演会「あなたに未来はない」に講師として来浦された西丸震哉氏などユニークな参加者もあつた。上曾峠から通称キノコ山まで一キロメートル余り。途中、この間の山火事で焼けた所を通る。野鳥のことなら川崎さん、植物のことなら吉武さん、後藤さんなど専門家が沢山ついているので心強い限り。クレオパトラのネックレスみたいな白の玉の連つたのがキブン。赤い面白い形の花がウグイスカグラ：：などと植物の名を教わりながら歩く。木という木が一せいに芽ぶいて、目が痛くなる程のみどり色である。

雨のふり出したキノコ山の頂上で「林道工事をすることを変更するわけにはいかないが、皆さんの云う自然保護については充分考慮して工事をするつもりである」：：という風な内容の県環境局環境指導課長の小林氏等の誠意があるのだから、ないのだからわからない様をきく。そのうち雨もかなりひどくなり、自然を楽しむ時間的余裕もないままに、そそくさと山をおりてしまった。

五月三日、ゴールデンウィークのお中日。どうせ舗装林道になつてしまふ運命にある道なのなら、その前に、自然のままの形が残っているうちに、大いに歩いておくりではないか：：という、私のモツタイナ精神が実現して、今度は家族五人だけのハイキングとあいなつた。

湯袋峠から沢伝いの山道に行く。途中、少し山の方へ入つた所で、小さな池を見付け、その近くに二かかえほどのタチツボスミレの群落を見付けて、子供達は大きいわぎ、スミレの花の上を歩くのが可哀想だといつて、ピョンピョンハネて歩いている。小さな山へ登つてみたら頂上は山ツツジの花の真盛り、ふとその中にスイカズラより大きい白い美しい花を見付けたが、専門家のいない悲しさ。植物図鑑をメチャメチャに引いて、どうやらツクバネウツキらしいと見当をつける。木の下には水玉もよりの葉のホトトギス、ホウチャクソウ、チゴユリ、エンレイソウ、などが咲いている。

トンボが沢山とんでいるが、これも名がわからなくて残念である。

「うわっ きれいな水ノ」

子供たちが、かん声をあげる。

「これ、なに、川なの？」下のチビがきく。水が透明で、水の飲める川なんて、この子の経験の中には入ってなかつたのである。

「ママ、お山がオシッコもらしてる」

岩と岩の間から、たらたら流れている水。こんな形で水というものを見ることも、この子にとっては初めてのこころしいと知って私も自分のうかつを恥じた。こんな